



第6回

江別市学校給食の在り方検討委員会

江別市の学校給食の在り方

1. 江別市の学校給食の在り方

令和7年2月4日
江別市学校給食の在り方検討委員会資料

■ これまでの検討委員会で
確認してきた江別市の学校給
食の特徴、在り方を整理する。



子どもの笑顔があふれる、安全・安心な江別市の給食

江別市の給食の特徴（二本柱）

食育の推進

地場産品（野菜）
の活用

リスク分散（災害や食中毒等への対応）

食物アレルギーへの対応

学校給食摂取基準・学校給食衛生管理基準

安定した調理体制

7. 安全性の確保につながる取り組み

安全

より高い衛生管理基準に沿った調理により、食の安全を第一とした学校給食を提供する。また、各種感染症や異物混入など、食の安全性を脅かす状況に対応できる体制づくりを行う。

江別市の取り組み（在り方）

- ・学校給食衛生管理基準等に基づいた施設・設備の整備のほか、食品の取扱いや調理作業における、**衛生管理体制を徹底**する。
- ・**安定した調理体制**（施設・設備、調理従事者等）を確保する。
- ・**災害や食中毒等のリスクに対応**できる体制を構築する。
- ・内部環境（現場の声）や外部環境（委託業者、地元生産者）等と相互に連携しながら、**運営体制を強化**していく。

8. 児童生徒の安心につながる取り組み

安心

給食に地産地消の旬の食材を使い、地元地域の食、食文化を土台にした上で、適切な栄養の摂取による健康の維持増進を図る。

江別市の取り組み（在り方）

- ・**学校給食摂取基準を満たし**、児童及び生徒の心身の健全な発達に資する給食を提供する。
- ・**食物アレルギー対応**が考慮された給食を提供する。
- ・**地場産食材**等の質にこだわった食材を活用する。
- ・**児童生徒・保護者・地域とのつながり**を深めながら、**食育を推進**する。
- ・内部環境（現場の声）や外部環境（委託業者、地元生産者）等と相互に連携しながら、**運営体制を強化**していく。

※第3回江別市学校給食の在り方
検討委員会資料より



子どもの笑顔があふれる、安全・安心な江別市の給食

食育の推進

地場産品（野菜）
の活用



子どもの笑顔があふれる、安全・安心な給食を提供するため、
江別市の給食の特徴・強みを、
更に大きくしていく取り組みを進めていく。

■ 食育

食育基本法では、食育とは「生きる上での基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるべきものであり、様々な経験を通じて、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるもの」と位置付けられている。

■ 食育推進計画

食育基本法に基づき、国、道、市において、それぞれ食育推進計画を策定している。

江別市においても、農業振興課所管により、令和6年度～令和10年度を計画期間とする「第4次江別市食育推進計画」を策定し、各種計画との整合を図りながら推進している。

江別市の食育

第4次江別市食育推進計画に基づき、各分野において、食育が進められている。

江別市の食育

保健分野

各年代を通じて、健康寿命の延伸を目標に、健康診査、健康教育・相談、健康づくりを推進する。



福祉分野

幼児期へは、保育園等の園児への給食の提供を通じて、適正な栄養管理を行うとともに、食を育む力の基礎を養う。



農商工分野

小中学生へは、生産・流通・加工・販売などに係る多様な体験や施設見学などを通じて、食の大切さや理解を深める。



環境分野

食品ロスの削減に関心を持つための啓発活動を推進する。

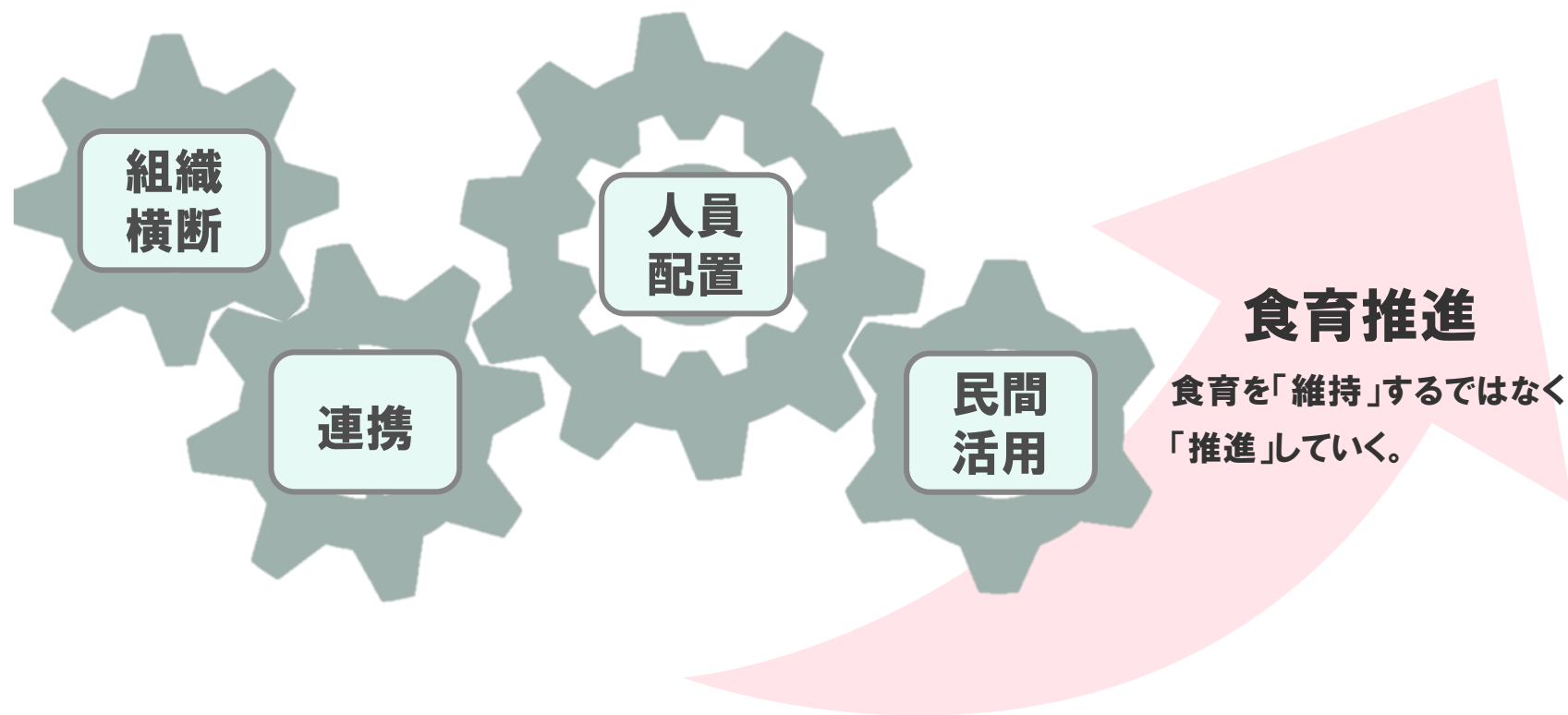
教育分野

生きる力を身に付けていくための食習慣への理解を広げるため、学校給食の提供及び栄養教諭による指導を行う。
江別産農畜産物を学校給食に取り入れることで、郷土に対する親しみが湧き、食に対する正しい理解につなげる。



■ 学校給食における食育の推進

学校給食における「食育」を、より大きく進めていくためには、様々な手法（歯車）が噛み合うことが大事である。



■ 学校給食における食育の推進②

人員 配置

栄養教諭(道費・市費)、栄養士(市費)等の配置により、食育推進に必要な人数を確保していく。

連携

児童生徒・保護者・学校・地元生産者・行政がつながりを深めながら連携していく。

組織 横断

各分野が実施している食育と学校給食を活用して実施している食育の情報を共有していく。

民間 活用

民間事業者が持つ食育ノウハウを活用し、異なる角度から食育を推進していく。

江別市の宣言

【江別市健康都市宣言】

(平成29年4月1日発表)

江別市健康都市宣言

都市と自然が調和するまち江別で、元気で健やかな毎日をおくることは、
私たち市民すべての願いです。

この願いをかなえるには、世代をこえて市民一人ひとりが、住み慣れたま
ちで健康づくりに取り組み、いきいきと過ごすことが大切です。

そのために、健康寿命を延ばし、だれもが健康で安心して暮らせるまちを
めざして、ここに「健康都市えべつ」を宣言します。

- 一 生涯を通じて学び、こころと体の健康に関心を持ち続けます。
- 一 みずからの健康を守るため、進んで自分の健康状態を確かめます。
- 一 バランスのよい食事や適度な運動により、正しい生活習慣を守ります。
- 一 地域とのつながりを大切にし、健康づくりの輪を広げます。

平成29（2017）年4月1日

江別市長 三 好 昇

すべての市民が生涯を通じて
健康に過ごせる健康意識の向上

【江別市子どもが主役のまち宣言】

(令和6年11月20日発表)

江別市子どもが主役のまち宣言

未来を担う子どもたちは、江別の宝です。
すべての子どもたちが、いつも幸せを感じ、未来への夢や目標を抱くことが
できるまちは、江別市民すべての願いです。

すべての子どもたちには、安心して遊ぶ、食べる、ゆっぴり眠るなど、色々な幸せがあります。
それぞれが望む幸せを、いつも感じられることが大切です。

すべての子どもたちは、自分の意見や気持ちを表し、
ありのままの自分を認められることで、自分らしく自信をもって自己を形成していきます。

すべての子どもたちが、健やかに育ち、学び、笑顔で暮らせるよう、
私たちは、子どもの幸せを第一に、子どもにとって最も良いことを考える。
子どもが主役のまちを目指すことを、ここに宣言します。

- 一 子ども一人ひとりがかけがえのない存在です。大人は、子どもそれぞれの人格や
個性を大切にします。また、子どもたちの意見に耳を傾け、その意見をまことに
反映します。
- 一 子どもが自らの育つ力を十分に発揮できるよう、いじめや虐待がなく、安心で
きる環境で、健やかに遊び、学ぶことができるまちは、まことに取り組みます。
- 一 子どもを育てる大人も笑顔でいられるよう、安心して子どもを産み、育てることがで
きる環境づくりを進めます。
- 一 家庭や学校だけでなく、地域社会全体で、子どもの健やかな成長を支え、応援
します。

令和6年11月20日

江別市長 後 藤 好 人

子どもたちがいつも笑顔でいられ
健やかな成長が保証される

学校給食の提供、食に関する指導においても、宣言の主旨に沿って実践していく。

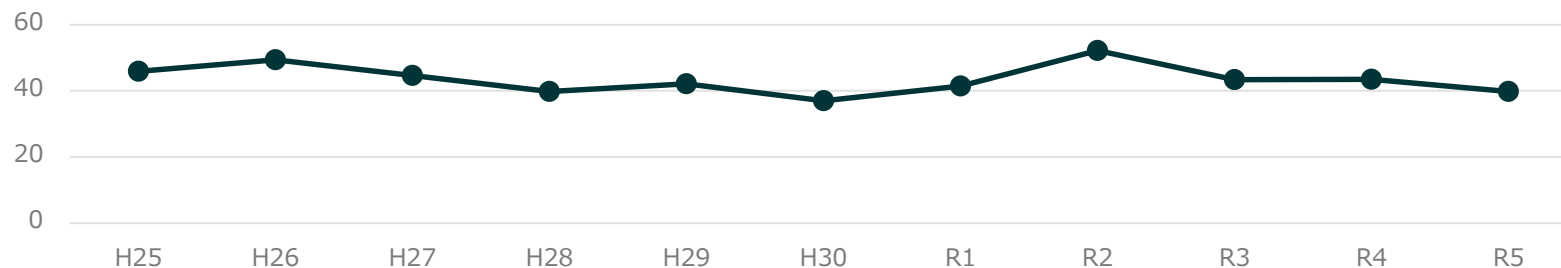
■ 地場産野菜の使用率の向上

事務事業評価表において、「地場産野菜の使用率」を成果指標に定めている。

目標を50%としているが、例年40%前後の使用率となっている。

【江別市の地場産野菜使用率】

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
45.9	49.4	44.6	39.8	42.1	37	41.5	52.2	43.4	43.5	39.8



献立次第で江別市産の野菜を使用できるか、天候による影響など、様々な要因が絡みますが、地元生産者との密な連携により、使用率の向上を図っていく。

江別市の学校給食の在り方を 実現するための手段

検討課題



・人材不足（調理員等不足）

・施設老朽化

各課題について、検討委員会で議論を重ね、

施設更新については、3案に絞ってきた。

統合センター新築案／対雁調理場新築案／民間事業者デリバリー方式導入案

調理体制については、「これまで培ってきたノウハウを活かすため、できる限り、直営調理体制を維持したい考えであるが、安定的な調理体制維持のため、9000食の直営体制の規模縮小を検討していきたい。」としている。

（結論保留中）

人手不足・労働人口の減少

調理師免許交付数の推移（再掲：第 1 回検討委員会資料より）

平成 2 0 年度には、42,000件あった免許交付数は、令和 3 年度には、28,000件になり、**2 / 3（33%減）**となっている。

江別市が採用している調理補助員は、必ずしも免許保有を要件としていないが、調理に携わる労働人口が減ってきていることがわかる。

調理師免許交付数の推移

	総数 (累計)	免許 交付数 (単年度)	免許取得資格			
			養成施設 卒業	講習課程 修了	試験合格	附則講習 認定
平成 20年度	3,471,467	41,958	17,386	—	24,571	1
21年度	3,513,989	42,522	16,448	—	26,060	14
22年度	3,555,679	41,690	15,546	—	26,143	1
23年度	3,596,046	40,367	16,613	—	23,754	0
24年度	3,636,253	40,207	16,685	—	23,521	1
25年度	3,674,903	38,650	17,260	—	21,390	0
26年度	3,712,893	37,990	16,507	1	21,482	0
27年度	3,749,828	36,935	15,929	—	21,005	1
28年度	3,785,297	35,469	15,764	—	19,704	1
29年度	3,817,774	32,477	13,789	1	18,686	1
30年度	3,848,386	30,612	13,459	—	17,153	0
令和元年度	3,877,425	29,039	13,125	—	15,914	0
令和2年度	3,905,719	28,294	13,118	—	15,176	0
令和3年度	3,933,842	28,123	12,961	—	15,162	0

（資料：厚生労働省「衛生行政報告例」）

（参考：江別市）

	調理員	調理補助員
令和 6 年	1 1	4 9
うち調理師 免許保有者	1 1	5

道内有効求人倍率の推移

職業全体では、1倍前後の有効求人倍率となっているところ、調理に関しては、2.5倍前後の倍率で推移している。加えて、調理に関する求職者数は、減少傾向にある。

(単位：倍、人)

		H29年3月	H30年3月	H31年3月	R2年3月	R3年3月	R4年3月	R5年3月	R6年3月	R6年11月
職業計	有効求人倍率	1.05	1.14	1.19	1.09	0.96	1.03	1.05	0.99	0.99
	求人数	92,369	94,543	96,163	84,844	83,701	89,752	90,357	84,933	79,079
	求職者数	88,095	82,970	81,046	77,672	86,855	87,145	86,093	85,876	80,057
調理人 調理見習	有効求人倍率	2.44	2.73	2.69	2.40	1.66	2.32	2.73	2.66	2.57
	求人数	6,385	6,841	6,550	5,789	4,776	5,761	5,943	5,519	5,421
	求職者数	2,621	2,502	2,432	2,411	2,871	2,478	2,178	2,072	2,108

※北海道労働局「月別職種別、求人・求職・賃金状況」資料より

(厚生労働省) ハローワーク求人統計データ

(単位：倍)

令和5年度		全国	北海道
給食調理員	有効求人倍率	3.77	2.76

※厚生労働省職業情報提供サイト「jobtag」より

※有効求人倍率…求職者1人に対して何件の求人があるかを示す指標
有効求人数を有効求職者数で割って算出し、倍率が1を上回れば求職者の数よりも人を探している企業数が多く、下回れば求職者の数のほうが多いことを示します。

■ 道内の調理委託化の状況

調理員の確保が難しくなっている状況に対し、調理委託等に対応する自治体がある。

自治体名	調理委託開始	委託経緯
滝川市	令和3年8月～	調理員の確保が難しくなっている
陸別町	令和4年4月～	待遇面の向上、人手不足への対応のため委託
黒松内町	令和4年8月～	調理員の確保が難しくなっているため、給食センター新築にあわせて調理委託
芽室町	令和5年4月～	調理員の確保が難しくなっているため、一部シルバー人材を活用 (下処理、洗浄業務の一部)
浜中町	令和6年4月～	調理員の確保が難しくなっている
標茶町	令和7年4月～ (予定)	調理員の確保が難しくなっている

※電話による聞き取り

これまでの情報に加え、今回提示した情報も判断材料として、第5回検討委員会からの継続審議である、「今後の調理体制」について議論いただきたいと思います。